

企業参入による取組事例 〔岡山県瀬戸内市〕

1. 地域農業の状況

○ 瀬戸内市は、岡山県の東南部に位置し、市の西端を南北に一級河川吉野川が流れ、西部は平野が広がり、東南部は瀬戸内海に面した丘陵地と島々からなる。

○ 温暖な気候を活かして、平野部では水稻、二条大麦の作付けが行われ、南部の丘陵地ではハクサイ、キャベツ、冬瓜などの野菜栽培や酪農が盛んである。

○ 瀬戸内市の耕地面積は2,570ha(平成26年耕地面積統計)であり、耕作放棄地面積は415ha(平成22年農林業センサス)となっている。



耕地面積	2014年	2,570ha
田耕地面積	2014年	1,900ha
畑耕地面積	2014年	676ha
総農家数	2010年	1,887戸
自給的農家数	2010年	594戸
販売農家数	2010年	1,293戸

資料: 耕地面積統計、農林業センサス(農林水産省)

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体 株式会社コープファームおかやま

再生面積 1.22ha(経営面積1.5ha)

作付作物 トマト

地区名 長浜地区

取組年次 平成25年

販路 生活協同組合おかやまコープに出荷

(1)概要

○ 生活協同組合おかやまコープが中心となって、農業生産法人「株式会社コープファームおかやま」を立ち上げ、瀬戸内市長浜地区の耕作放棄地を活用し、トマトの養液栽培のためにハウスを整備した。

○ 一般企業への就職が難しい障害者を受け入れる「就労継続支援A型事業所」の認可を受け、障害者の雇用も行っている。

(2)取組内容

○ 生活協同組合おかやまコープは、販売量が多く、県内産の流通が少ないトマトに着目し、生産から一貫して手掛けることで、安全安心なトマトの販売に取り組んでいる。

年間を通じて、安定的に供給するため、定植時期をずらすとともに、病気の発生時の拡大を防ぐため、独立したポットでの養液栽培を行っている。

○ 平成26年6月から出荷を開始。
生産計画は平成26年度147t、平成28年度以降は300t/年を目指す。
ハウス面積は2棟、7,400㎡。
作業員26名(うち15名は障害者を雇用)。

○ (株)コープファームおかやまで栽培したトマトは「コープはれとまと」のブランド名で県内のおかやまコープ店舗で販売する他、宅配注文にも対応している。

活用した支援策

H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業・施設等補完整備)

